

# 事例 ボランティアコーディネーター実践事業

楽晴会（青森県） 〒033-0022 青森県三沢市三沢字園沢156-8 TEL 0176-54-2534

## 活動の概要

特別養護老人ホームに配置されたボランティアコーディネーターによる、施設在宅福祉サービス、養護老人ホームなど、法人全体のボランティア活動に対する包括的な「ボランティアコーディネーター実践報告」の活動

## 法人の概要

昭和42年に齊藤甫人が高齢者事業の必要性から、寄付行為により法人設立した社会福祉法人。行政の庇護に甘んじることなく、独立自尊の精神で経営されてきた法人。

青森県三沢市は米軍基地のある北国であり、国際的な風土もあって、自由、個人の尊重を大切にするとともに、太平洋側の平野に囲まれたなだらかな地形もあり、南部のゆったりした気質のある地域です。

創立者が語学堪能なこともあり、おそらく東北地方でははじめてであろうと見られる米軍婦人会の団体でのボランティア活動が、昭和49年頃から開始されています。

また日本人は団体が多いが、米婦人は自分の家で作ったケーキをちょっともってきていただくなど、そのボランティア精神、スタイルも異なったことから、多くのボランティア精神に対する啓示をうけることになったという。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…882,158千円
- 主な経営施設
  - 晴ヶ丘老人ホーム  
昭和43年設立、定員70名
  - 三沢老人ホーム  
昭和48年設立、定員110名

松園ケアラウンジスカイ

平成15年設立、定員27名

## 実施施設の概要

- 施設名…三沢老人ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム  
定員110名

## 施設の運営方針

自分で入りたいと思う施設作り

## 活動の内容

- 活動対象者…一般市民・職員
- 活動の頻度…毎日
- 年間延利用者数…1600名
- 活動開始年…平成8年

## 活動開始の背景（取り組みの経緯）

取り組みの経緯は、施設長の私が、老人ホームという場合は、地域から隔絶した、特別な場ではない、という発想から始まっています。

その間、いろいろな方法でボランティアを増やす試みをしました。

— ボランティア活動がしやすいように、紹

介の冊子を作る

- デイサービスのボランティア募集として、有償のボランティアを公募してみる
- ボランティアアドバイザー研修会をしてみる
- コーディネーターを配置する

これらはいずれも意味はありましたが、失敗に終わり、いろいろ検討したのちに、ボランティア講座や、コーディネーターとして知識のある者の配置などを通し成功してきたと思っています。

ですから簡単だったのではなく、なかなか定着しないボランティア活動を定着させるまでの苦闘でした。

### ■人材・資金面等での工夫、苦慮

当初は措置時代でしたので、ボランティアコーディネーターを配置するだけで基準にないと、監査で眼をつけられる対象だったかもしれません。

また人材も上記で触れているように、最初はパートで全くの未経験者に依頼したのですが、やはり仕事の前の福祉がわからないのに、紹介といっても難しく、うまくいきませんでした。

そのため資金面としては、日本火災財団や現在の日本財団（旧笹川財団）などの補助がある、あるいは市の単独事業もある、などといって配置のいいわけにしていますが（実際は全く足りませんでした）、少しですが措置費の中から地域機能強化推進費のような補助が70万円程度できるようになりました。さらに最終的には先駆的な事業につけていただくということで、人件費が賄われる程度の子算をつけていただいたのは当会のボランティア活動の実績でもあり、当時の県の担当者の英断です。

当初はこのような苦労がありました。それ

でも私共は一般市民が来るとというのが、老人ホームの存在には必要条件だと信じていたもので、現在の活動にいたっております。

### ■利用者の声、地域の反応

現在は、年間1,600人ほどのボランティアがきます。人口4万3000人の地方都市です。さらに在宅の一人暮らしの方への訪問のボランティア活動が行われるようになり、職員が参加しているものも出てきました。そして当会のケアマネージャーが、このボランティアも活用するケースも出てきました。

そればかりでなく、市立病院でのボランティア活動への斡旋など地域の受け入れに影響しています。

また施設ボランティアコーディネーターはまだまだ数が少なく、私共でまとめた小冊子「地域と施設とボランティアと—施設ボランティアコーディネートの展開—」は、大学機関からの問合せもあり、わが国の数少ない施設ボランティアコーディネーター記録として、話題をさらったわけではありませんが、小さいながらも光を放っていると実感しています。

### ■活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動は現在、定着して、何もしなくてもボランティアの問合せが口コミで入る状況になっています。しかし第三者にわかりやすくするためにはもう少しボランティア講座を開催したほうがいいと思っています。

また現状はボランティアコーディネーター1名の配置だが、さらにもう1名配置し、ボランティアの増員に対応したいと思っています。